

決 議

(柏崎刈羽原子力発電所におけるプルサーマル計画について)

(社) 柏崎青年会議所は、設立以来40年「青年としての英知と勇気と情熱をもって」「柏崎のまちづくり」のために活動をしてきました。昭和43年には荒浜砂丘地の開発利用を柱とする「社会開発計画」を発刊し具体的な提言を行いました。その後も調査研究を積極的に続け、昭和46年には「将来の柏崎」に必ず役立つ、との確信のもと「原子力発電所建設推進決議」を行い、以来当会議所内に委員会を設け、常に「柏崎のまちづくり」を念頭に置きながら原子力発電所の推進をおこなってまいりました。

エネルギー資源の大半を海外からの輸入に依存しているわが国において、省エネルギーに努めることは勿論、エネルギー自給率を高め、エネルギーの安定供給をすすめていく上で、国のエネルギー政策の柱とも言うべき核燃料サイクルは必要不可欠と考えます。プルサーマル計画はその中に位置付けられ、資源の有効利用の点からも必要な計画と理解しております。また、地球環境という観点からも温暖化防止のため二酸化炭素の排出量を抑えるなど、原子力発電が最も有効的な発電方法であると確信しております。

電気事業者には、今後も安全な原子力発電所の運転に努め、一層の情報公開をおこない、地域との共生に努めていく姿勢を改めて求めるものであります。また、国には原発立地地域の理解を得るべく明確な核燃料サイクルの方向性を示し、またデータ改ざんなどを今後一切起こさないなど、改めて管理の徹底が行われるよう強く求めるべきだと考えます。安全体制に関しては国が一元的に責任を負うことを明確にし、地域が不要な不安を抱かぬような施策、また法体制が早急に整備されるべきだと考えます。

以上の見地から、(社) 柏崎青年会議所は電気事業者、また国に対し一定の条件を付しながら原子力発電ならびにプルサーマル計画を理解し、当地へのプルサーマル計画の受け入れに賛成することをここに決議いたします。また、柏崎の将来に責任を担う青年経済団体として、電源立地である当地の地域振興がはかられながら、原子力発電所と地域とが共生していくことを強く切望するものであります。

平成11年1月25日

社団法人柏崎青年会議所

1999年度理事長 吉田孝継

会 員 一 同

